

一般助成

2年目

知識の提供・普及啓発



自然資本プロトコル国際シンポジウムの様子

# 自然資本管理の主流化による 持続可能な社会の構築を目指す 民間セクターへのアプローチ

主催するシンポジウム、  
ワークショップ、  
研修への参加者数

300人

シンポジウム報告の  
ウェブページへの  
アクセス数

3,300回

活動の全体目標に  
対する達成度

90%

## 課題

持続可能な開発の実現には企業の貢献が不可欠であるが、自然資本の経済への主流化が進んでいないため、取組みは非常に限られている。

## 目標

活動終了後も活動の効果が継続・発展することで、次のように社会が変化していることを目指す:自然資本の経済活動への取込みが民間セクターに浸透することで、企業価値の追求が「環境」の追求となる。

## 活動内容

本事業では、自然資本のコンセプトの理解が日本の幅広い関係者間で深まり、企業の経営判断が改善され、具体的な取組みが推進されることを目的として実施された。その実現のために、自然資本に関する世界的な最新動向を調査し、それを共有するためのシンポジウムを開催した。また、具体的なツールとしての自然資本プロトコルについて、日本での理解を促進するためのシンポジウムの開催や日本語版の作成により普及を進めた。



自然資本プロトコル  
日本語版発表

## 達成できなかったこと

自然資本の重要性、対応の必要性については周知できたと考えるが、自然資本プロトコルの採用、意思決定の変化など、具体的な行動としては表れていない。

## 今後の展望

自然資本プロトコルについて、協働プラットフォームを組織する。自然資本主流化の企業事例を形成する。

## 成果と工夫した ポイント



### 成果

自然資本コアリションとシンポジウム等を開催し、参加者の85%~89%から満足いただいた。自然資本プロトコル日本語版を作成し、シンポジウム参加者のうち160名が1ヶ月でダウンロードした。

### 工夫

自然資本コアリションとの密接な連携(プロトコル翻訳関連の調整、シンポジウム参加者選定・依頼)